



219号

2018年

2月6日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyou.ne.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス [ODUnion@mb4.seikyou.ne.jp](mailto:ODUnion@mb4.seikyou.ne.jp)

目次：1: 退職金削減に『再度』反対 2~5: 学長懇談会報告 6~7: 年俸制についてあらためてまとめ 8: 旅日記

## 退職金削減に『再度』反対します！



前号の組合だよりでお知らせしたとおり、職員組合では、1月5日に団体交渉を行い、退職金削減を行わないことを法人に対し求めました。特に、退職直前に突然退職金を減額されることになる今年度の退職者について、何らかの緩和処置を行うことを求めましたが、法人からは財政状況を理由に断られました。

非正規・年俸制を除く岡山大学の教職員の給与は、学長裁定により人勸準拠とすることが定められています。それは、人件費を捻出するための経営努力を放棄しているようにも見えます。大学が法人化して10年以上が経過しますが、そろそろ、独自の経営努力を行っても良いのではないかと組合では考えています。

ちなみに、全国大学高専教職員組合が1月17日に実施した文部科学省会見のなかで、文部科学省は退職金削減に関する要望に対し次のように回答しています。



〈全大教要望〉国の退職手当引き下げ法を理由とした国立大学法人等に対する特殊要因運営費交付金減額措置を行わないことを求めます。

〈文科省回答〉国立大学法人の教職員の給与等の労働条件は、各法人の自主性・自律性に基づいて労使自治によって決定されるもの。退職金相当額の運営費交付金は、国家公務員であると仮定した場合の退職手当の範囲内で措置することとなっている。退職手当法が1月1日付で改正されたので、退職金相当額の計算は1月1日以降においては改正された退職手当法により精算される。但し、これは精算の話しであって、退職手当をどのような基準で支給するかは各法人で決定することになる。

また、質疑の中で、



それぞれの国立大学法人が、教職員に対していくらの退職金を払うかということは、それぞれの国立大学法人の制度に依る。国が措置する予算額以上に支払ってはならないとしているわけではない。

と、答えています。

運営費交付金が低く抑えられている中で、大学が人件費を捻出していくことは大変なことだとは思いますが、労働者にとって、退職金を含めて給与水準が高いということは、単純に魅力です。今後、岡山大学が良い人材を集めていくためにも、給与面でプラス方向の独自色をだしていくことは重要なことではないかと思えます。

今年度の退職者が退職するまでに残された時間は少ないですが、削られた退職金を取り戻すため、職員組合では、できれば3月までに、再度、団体交渉を行うことを計画しています。団体交渉の日程が定まった暁には、組合員の皆様、特に今年度退職される皆様、是非応援にお集まりいただければと思います。

## 8月7日 学長懇談会，新三役が学長に挨拶



8月7日午前10時30分から1時間にわたり、本部棟学長室にて学長懇談会を行いました。法人からは、榎野学長、高橋理事、後藤総務・企画部長、朝國人事課長、原田総括主査の5名、組合からは稲垣委員長、高橋副委員長、五十嵐副委員長、藤原副委員長、木村副委員長、小河副委員長、笹倉書記長、岡本書記の8名が参加しました。今回の懇談会では、以下の7つのテーマについて、学長からお話を伺いました。

### 1. これからの岡山大学のビジョンについて

—この4月から新しく学長になられたわけですが、これからの岡山大学にとって何が一番重要とお考えかお聞かせ下さい。

榎野ビジョンについて、健全運営・成長戦略・SGUの中間評価・岡山大学の理念・岡山大学の目的（自然と人間の共生）・平成29年度の概算要求について・「実りの学都」について30分ほど説明を受けました。既にホームページ等で公表されているので、ここでは省略します。

### 2. 財政状況について

—岡大の財政が厳しい状況であることについてご説明ください。

国立大学法人化以降、本学の基盤的な運営費交付金が約16億円削減されています。この間、消

費税増税や人事院勧告に沿ったベースアップ、事務職員の65歳までの再雇用制度などで、いろいろ支出が増えています。

—岡大に努力の余地はなく社会情勢的に赤字になったということでしょうか。

いいえ、岡大は非常に努力をしてきました。岡大がどう持続的に発展していくかにあたっては、まずは学生さんに来てもらわないといけない。岡大はスーパーグローバル大学創成支援事業にチャレンジし、全国33大学の採択校の1つに選ばれ、また、研究面においても研究大学強化促進事業に採択されました。岡大の研究力の強みを生かして研究所もできている。研究ができて発信すると、本学学部・大学院への優秀な学生や研究者の確保につながる訳です。医療分野においては、岡山大学が中四国地方の窓口となって新しい医療機器・医薬品を作り、志願者増につなげていきます。引き続き、外部資金を取っていかないといけないですし、なるべく無駄を省いていかなければならない。運営費交付金が減ってくれば、それに見合わせていろんなことも削減していかなければならない。成長するべきところは成長させ、縮小するべきところは縮小させることを、皆様方と一緒に知恵を使ってやっていくしかないと思っています。



—1年間の人事凍結について原因と対策をお聞かせください。

他大学の状況も聞いていると思いますが、数年前から全ての大学にあてはまってされていることです。岡山大学では物や研究費にしわ寄せがいていたが、執行部では人が減るとアクティビティが減るということで、人は減らさず、逆に人件費が増える傾向にありました。したがって、来年は2億近く足りなくなっていますので、来年の3月までの定年退職者に係る新たなポストに関しては凍結という苦渋の選択となりました。皆様方に現状を知っていただかないといけないので、教育研究評議会と部局連絡会へ資料を出し、情報を共有しています。

—来年以降も人事凍結は続くのでしょうか。

緊急的な措置として人事凍結をしています。今後も運営費交付金は年々減っていきますので、中長期的な視点で各部局としてどのようなビジョンを持つかを相談していきたい。緊急事態のこの機会を使って、いかに上手くリデザインして部局として成り立っていくべきかというニーズに応えていただきたい。

—研究費が少ない事態でさらに減る可能性についてどう考えですか。

人事凍結の効果でどれくらい財源的にゆとりができるかなど、トータルで考えながら、皆様方と相談しながら決めていきたい。

—人事凍結の中、どう活性化していくお考えですか。

全部削る訳ではなく、リデザインして、伸ばせ



るところは伸ばしていかないといけない。事実関係を考えてできるところはやっていきたい。成長戦略としていかに外部資金を取っていくかなど、自分たちで考えていかねばならない。若い研究者の方達をなんとかしてあげたいという思いはあるが、確約はできないのが正直なところです。

—個々の研究者や部局でできることは限られている中で、執行部が見通しを立てて緊急事態が改善に向かっていますが、執行部の方にしっかりお話いただくことで、若い教職員も希望を持って研究に打ち込めると思います。我々も知恵を出しますので、よろしく願いいたします。

皆さんの声を吸い上げていき、良いアイデアをどんどん出して頂きたいと思います。我々も部局と話をしながらやっていますので、いろいろな場面でご意見をください。

—運営費交付金が削減されていることについて、大学としてはどのような対応をされていますか。

国大協でもいろいろな努力をされていると思います。一番大事なのは、大学がいかに素晴らしいことをやっているかを社会の方々に訴えることです。国民から大学の予算を減らさないようにとの声があがるよう、努力をしていきたいと考えています。

—人事院勧告はプラスの勧告がでると予想されていますが、大学としての対応はいかがですか。



(人事院勧告は) そうなるのかなと思っています。(勧告に沿うようにと) 考えています。



### 3. 有期雇用職員の雇用期限について

—5年を超えることが可能という前の執行部の方針のままですか。

基本的にはそうです。財源があるということ、その仕事が必要か、評価などが担保されていることが必要ですが、執行部としての方針は変更しません。

—個別の職員には再雇用の連絡がまだ来ていない方がいるようですが、できれば早めに連絡をして頂くようお願いいたします。

はい。



### 4. 年俸制について

—現行の年俸制はいろいろな問題を抱えており、良い人材を採用することにはなっていないのではないのでしょうか。年俸制の制度設計の見直しが必要なのではないのでしょうか。

制度にはメリットとデメリットがあります。メリットとしては、業績によって評価がなされることで、個人のやる気をだし、流動性をもつことにもつながっているということで、前執行部が導入しました。制度を安易に変えることは良くないので、場合によっては少し見直すこともあるかもしれませんが、基本的には年俸制を続けていく方針です。

—前執行部は、ある程度したら見直しが必要とのことでしたが、いつ頃に見直すかの具体的な予定はありますか。

今のところ、すぐに見直す予定はありません。



—問題点が多くあり、あまりいい制度になっていないので、早めに改善なり、選択制への移行なりを考えていただきたい。

元々は優秀な人を確保するための制度なので、問題点などを明確にした上で必要があれば改正するなどして制度が生かせるようにしたいと考えています。

### 5. 60分授業・4学期制について

—教職員の労力強化になっており、成果が上がっていないように思われます。この制度についてのご意見を頂けないでしょうか。

移行にはいろいろな理由があったのですが、SGUになるにあたって、海外との流動性をより高めるため、また、医学部が国際認証を受けるために必要でした。本質は講義の質であって、いかに60分4学期制で講義の質を担保していくかが、今後の課題ではないかと思っています。

(高橋理事) 急速な導入で皆様方に負担をかけたという実感はあります。今後の世界に伍していく大学を選んだ岡山大学として、国際通用性という問題からも、元には戻せないだろうと思います。その中でどうリデザインしていくかを考えていかなければならない。実質化をして実りのある教育にするためにどうしたらいいかをご相談させていただきたい。どういうことをアンケートで聞きたいかなど、具体的に教えて頂きたいので、意見交換をできるかと思っています。

—例えば60分を50分にするとか、2学期連続している講義の途中で成績を出したり、アンケートを取ったり、などは問題ではないかなど、細かい要望が出てきています。変えるのは簡単なはず

なので、早くやってほしいと思います。

(高橋理事) 改善できることをやっていながら、全体のカリキュラムをどう体系化してスリム化して実質化していくのか、考えて検討していきたい。

——スリム化とは？

(高橋理事) 科目が多すぎるとか、授業科目の構成をカリキュラムマップで作っているけれど、課題は何かなどを考えて、その辺を改良していきたい。



## 6. OUMCについて

——法人設立は見送られましたが、予算をかけて実現するメリットがありますか。

4月以降、他の5法人の本部の方々と話し合っ、医療情勢が変わってきていることもあり、必要性は認めています。お互いに協力しあってやっ、ていかないといけないことは合意しています。すぐの経営統合や地域連携推進法人を作ることは難しいので、岡山医療連携推進協議会が設立されました。具体的に、人材育成や治験など研究と一緒にやっ、ていき、必要があれば地域の連携推進を作っ、ていきます。市民目線で岡山医療の体系化を、より幅広い連携に取り組んでいきます。

## 7. 軍事研究について

——担当理事が判断することに不安があります。大学として対応すべきではないでしょうか。

軍事に直結するような研究はNOですが、中身を見ていい研究であれば大学として伸ばしていかないといけない。研究業務について学長を補佐

するのは研究担当理事であるので、第一義的には研究担当理事が判断するが、必要に応じて担当者を含めた関係者で協議の場を設けて、個々の事例に対応していきたい。もちろん、判断やその根拠については適宜学長にも報告しており、考え方や意識を共有するようにしている。

——研究費が削減されている状況下でも、軍事研究に関する研究費を安易に認めるべきではないのでしょうか。

しっかりと吟味しながらやっていきたいと考えています。

——委員会を作ってそこで審議するというかたちをとっていただきたいです。

もちろん問題がありそうであれば委員会を作ってやっていきたいと思います。常に報告してもらって、理事間の横の風通しをよくし、力をあわせて一緒にやっていきたい。みんなで共有して考えてやっていきます。

——研究担当理事が、研究者でないことについてはいかがお考えですか。

理事が研究者でなければならぬとは考えていません。理事には客観的で公平な観点から岡山大学の研究力の向上に取り組んでもらいたいと思います。理事自身もいろいろな研究もされていますし、中性子医療研究センターを始め、本学の研究内容などにも造詣が深い方です。私が指名した実力のある方ですので、心配はしていません。

## 8. その他

——最後にお問い合わせがあるのですが、来年度の岡大での全大教の教研集会に学長に挨拶いただけますか。

はい。

1時間という短い時間でしたが、様々な意見を交換し、学長懇談会は和やかな雰囲気で行われました。榎野学長はじめ、高橋理事、後藤部長には、お忙しい中お時間を取っていただきありがとうございました。(副委員長 高橋裕一郎)

## 岡山大学の年俸制について あらためてまとめ



2014年に文科省からの要請により、すべての国立大学は教員に年俸制を導入しました。とは言ってもそれぞれの大学で独自の年俸制を設計したため、一口に教員年俸制と言ってもさまざまな制度があります。教員年俸制導入から3年、ここで岡山大学における年俸制について改めて考えてみたいと思います。



### そもそも年俸制とは

そもそも年俸制とはなんでしょうか。端的に言うと、一年の給与額をきめて雇用契約を結ぶものは全て年俸制です。時間いくらで働く時給、一日いくらで働く日給、ひと月いくらで働く月給、一年いくらで働く年給、年給で決まっているのが年俸制ということです。

年俸制で一番有名なのはプロ野球選手ですね。その年の個人およびチームの成績によって次の年の一年の給与額が決まります。その給与額は一方的に雇用主が決めるのではなく、雇用主であるチームと被雇用者である選手の交渉で決まります。金額が折り合わなければ次の年の契約をしないという可能性もあります。雇用契約を結ぶか否かの決定権は雇用主側にも被雇用者にも同等にあります。

しかし、いま国立大学で行われている教員年俸制はそれとは異なります。現在全大教で把握している限りの国立大学の教員年俸制ではそれぞれの大学に「年俸額の給与表」というものが存在し、それぞれの教員がそのどの部分に当てはまるかを、ある一定のルールで決めるもので、個別の被雇用者との交渉は基本的に行われません。



### 年俸制の導入の理由

年俸制導入は文科省主導で行われました。その時年俸制導入の理由を文科省、そしてそれをうけての岡山大学は、以下のように説明していました。

- 人の流動を促す
- スター研究者を従来の月給制の給与ルールでは

出せないような給与額で「ヘッドハンティング」してることができる

しかし前者は年俸制を導入してもそれだけでは効果がなく、後者は年俸制を導入しなくても可能でした。ですので、年俸制導入によりなによくなったのかはよくわかりません。

文科省は年俸制の決定は業績評価とセットだと言っていました。しかし、業績の評価の方法については不問でした。その理由として、短期間で年俸制を立ち上げるためにはきちんとした評価制度を設計するには時間が足りないから、と説明されました。

どちらにしても年俸制を導入しなければならない理由について誰もよく理解しないうちに導入されたと考えています。



### 岡山大学の年俸制度

各国立大学はそれぞれの年俸制度を定めましたが、その中で、岡山大学の年俸制度はかなり特異なものであると岡山大学職員組合では認識しています。特徴的な点は以下です。

- **新規採用教員は全員年俸制である。**  
新規採用教員が年俸制である大学はいくつかありますが、その多くは特別に限られた部局あるいはポストがそうになっているだけで一律にすべての新規採用教員が年俸制であるところはあまりありません。

- **一度決まった基本年俸額は職階が変わらなければ変わらない。**

これは岡山大学特有の制度です。他大学では一度年俸が決まっても何年かあとにその年俸は業績によって見直すとしているところがほとんどです。ただ具体的にどのように見直すかはほとんどの大学で明らかになっていません。岡山大学は基本年俸は一度決まったら職階が同じである限り同じです。ボーナスが個人の業績評価によって変わるので個人の業績評価がよい年は年俸の総額が高くなりますが、その幅はそれほど大きくありません。従って岡山大学の年俸制では最初に年俸額がいくらになるかが非常に重要になります。

### ・住居手当や扶養手当がつかない。

月給制の教員には住居手当や扶養手当が付きません。けれども岡山大学の年俸制の教員にはそれらはつきません。月給制から年俸制に移行した教員は、月給制の時に受けていた住居手当や扶養手当の額を含めて年俸が計算されます。けれども最初から年俸制で採用される教員はそのような手当は最初からないものとして年俸が計算されていると思われまます。特にこれからこどもが増える年代の教員は、こどもが増えても年俸は増えないということを経験することになるでしょう。

他大学でも住居手当や扶養手当がつかない例はいくつかあります。住居手当や扶養手当がつく

つかないかは月給制か年俸制かというのとは次元の違う話で、給与を生活給と考えるか職務給と考えるかという問題です。その議論もなく年俸制とセットで住居手当や扶養手当をなくし、一方で生活給の一部と解釈される通勤手当は従来通りというのは制度としての一貫性に疑問が残ります。

性急に導入されたためか、岡山大学の年俸制はこのように矛盾に満ちており、早急な改善が必要と組合では考えています。特に実際の声を集めるために、年俸制で新規採用された方々にアンケートをお願いしています。是非ともご協力ください。



## 単組だより

### 理学部職員組合新年会 及び 高橋純夫先生功労表彰会

1月15日(月) 18:30～酒囲屋本店にて

高橋純夫先生を囲んで、理学部職員組合新年会を開催しました。おいしい料理とお酒で気の置けない仲間たちと楽しい時を過ごすことが出来ました。

本年度末で退会される高橋純夫先生には、組合からのささやかな記念品をお贈りしました。また、池田先生を中心とした有志から、理学部長も務められ理学部職員としてはもちろん、組合員としても岡山大学に多大な貢献をされてきたことへの感謝を込め、先生のご趣味である鉄道に関するグッズをプレゼントしました。



高橋純夫先生は来年度も特別契約職員として岡山大学に在籍されるとのことで、引き続き組合員として理学部職員組合に加入して頂くことになっています。これまでとはまた違った視点から組合活動に共に携わって頂けること、組合員一同とても楽しみにしています。



### あなたも組合の仲間になりませんか？



法人職員の給与・労働条件は、労使交渉で決まります！1人でも多くの皆様が加入していただくことで労使交渉における組合側の発言力は大きくなり、よりよい労働条件を実現していくことができます。

教員の方も、事務職員の方も、技術職員の方も、パートの方も組合に入ることができます

組合加入は、各単組役員もしくは組合までご連絡ください。メールでも申し込み出来ます。  
ODUnion@mb4.seikyuu.ne.jp

### ♪楽しい仲間のふぁみりーコンサート

こんにちは！職員組合合唱団です。合唱団では、環境理工学部文化部有志とその仲間と一緒にコンサートをします。どうぞおいでください。入場無料です。

日時：3月18日(日) 14時から

場所：シンフォニーホール岡山スタジオ1

練習は、月3回、金曜日の夕方6時から北公民館です。レパートリーは世界や日本の名歌から懐かしい歌まで、様々な曲で合唱を楽しんでいます。みんなで楽しく歌って身も体もほぐれ、一週間の疲れから開放！です。

一度、覗いてみてください。お待ちしております。

お問い合わせは、組合(内7168)まで



## ローカル線で行く！フーテン旅行記 第49回 薩摩の国をめぐる！（後編） 日豊本線／日南線

工学部単組 大西孝

今回は薩摩半島を訪れましたが、今回は鹿児島湾を挟んで東側に突き出した大隅半島を回ってみましょう。大隅半島には国鉄時代、西から順に大隅線、志布志（しぶし）線、日南（にちなん）線の3つの路線が日豊本線から志布志駅に向けて伸びていました。しかし、国鉄が民営化される直前に、大隅半島の西岸を走っていた大隅線と、半島の中央を縦断していた志布志線は廃止され、唯一、大隅半島の東岸を走る日南線のみが残っています。日南線の起点は鹿児島から遠く離れた南宮崎駅で、路線の大半も宮崎県にありますが、終点の志布志駅とその一つ手前の大隅夏井駅は鹿児島県にあり、大隅半島に残る唯一の鉄道路線です。今回は、鹿児島駅から日豊本線に乗り宮崎駅へ向かい、そこから日南線で志布志駅へ行き、さらに路線バスへ乗り換えた後、大隅半島の西岸にある垂水（たるみず）港から鹿児島湾をフェリーで横切って鹿児島市へ戻ります。

日豊本線は小倉駅から大分県、宮崎県を経て鹿児島駅までを結ぶ長大路線です。日豊本線の終点は鹿児島駅ですが、日豊本線の列車は鹿児島本線へ直通して、次の鹿児島中央駅に発着します。鹿児島駅は小さな駅ながら、多くの人が行きかう鹿児島中央駅の賑わいとは異なる旅情があります。鹿児島駅を出ると、車窓の右側には鹿児島湾と桜島が広がります。かつて大隅線が志布志へ向けて分かれていた国分（こくぶ）駅を出ると、霧島山地の山越えにかかり、うっそうとした森林の間を走り宮崎県へ入ります。山を下りた西都城（にしみやこのじょう）駅は、かつての志布志線の分岐駅です。ここで宮崎方面の列車と乗り換えるために途中下車しますが、名物「かしわめし」を駅弁屋さんで買ってみましょう。そぼろがご飯に載った九州北部のものと異なり、西都城のかしわめしは甘辛く煮た鶏肉がご飯の上に載っていて、忘れ



日豊本線の西都城駅のかしわめし。そぼろではなく、甘辛く煮た鶏肉が載っており、北九州のかしわめしとは違う味が楽しめます。

がたい味です。ここからさらに1時間ほど普通列車に揺られ、宮崎へ着きます。

志布志方面へ向かう列車は宮崎を出ると大淀川を渡り、南宮崎から日南線へ入ります。途中の青島駅の付近では日南海岸の変化に富んだ海岸線が見られるほか、油津駅を出ると遠くに奇岩が並ぶ様が見えるなど、南国の海岸線に沿って楽しい列車の旅が続きます。宮崎から3時間足らずで終点の志布志駅に到着しますが、この駅はかつて3本の路線が発着したとは思えない、ホームが1本だけの侘しい駅です。

志布志から路線バスに乗り継いで、大隅半島の中心の鹿屋（かのや）市を経て、大隅半島西岸の垂水港へ向かいます。この路線バスはちょうど、かつての大隅線と同じ経路を走っており、鉄道時代に思いをはせながら、夕暮れ迫る大隅半島を縦断します。

垂水港では、鹿児島行のフェリーを待ちます。夕日の中、鹿児島からのフェリーが姿を現しました。フェリーの上からは噴煙を上げる桜島が夕日の中にシルエットとなって映えます。今回は一度宮崎まで行き大隅半島をめぐるしましたが、鉄道、バス、フェリーと変化に富んだ楽しいミニトリップでした。



日豊本線の車内から望む鹿児島湾（錦江湾）と桜島。何度通っても見飽きることのない、国内屈指の絶景の一つです。



日南線の終点、志布志駅に到着。かつては大隅半島を走る3路線のジャンクションでしたが、今やホームが1本だけの侘しい駅です。



垂水港から鹿児島へ向かうフェリーの甲板から眺めた桜島。夕日にうっすらと桜島から立つ噴煙が見えます。